

3. 出土した遺物

車塚遺跡からは、土器・須恵器・陶器などいろいろな時代のいろいろな方法で焼かれた焼き物のほか石で作った鏃も出土しました。

焼き物の種類として、物を蓄えておく壺、煮炊きする甕、食べ物を盛る高杯や皿のほか、播鉢などがあります。



土器(どき)



須恵器(すえき)



陶器・土師器(とうき・はじき)



石鏃(せきぞく)

4. 用語の説明

- 縄文時代 : 1万数千年前から2300年ほど前の縄文土器を使っていた時代をいいます。主に狩猟や木の実などの採集を行って食べ物を得ていたと言われていいます。
- 弥生時代 : 2300年前から1800年ほど前の約500年間をいいます。本格的な水稲耕作が始まり、後の古墳時代に向けて各地で少しずつ小さな国々の形が整えられていった時代です。
- 須恵器 : 古墳時代から平安時代にかけて、窯で焼かれた青灰色の焼き物をいう。
- 陶器 : 粘土を使い、1000~1300度で焼かれたもので、釉をかけたものをいう。
- 竪穴建物跡 : 地面を掘りこんで作った、上屋を持つ建物の総称で、住居・工房・倉庫などがある。
- 掘立柱建物跡 : 地面に小さな穴を掘って柱を立て、上屋を建てる建物の総称で、地面を床面とするもの・床張りのものがある。
- 土坑 : 地面を掘り込んで作った素掘りの穴で、埋葬用・貯蔵用・ごみ捨て用などがある。



土器のいろいろ(復元)



掘立柱建物跡(復元)



竪穴建物跡(復元)



北から調査区を望む

1. 調査の概要

今回の発掘調査は県道建設工事に伴うもので、6月から約2,000㎡の範囲で調査を行ってきました。

本遺跡では以前縄文時代の石器が採集されており、今回の調査では弥生時代から室町時代にかけての堅穴建物跡や土坑などが見つかりました。

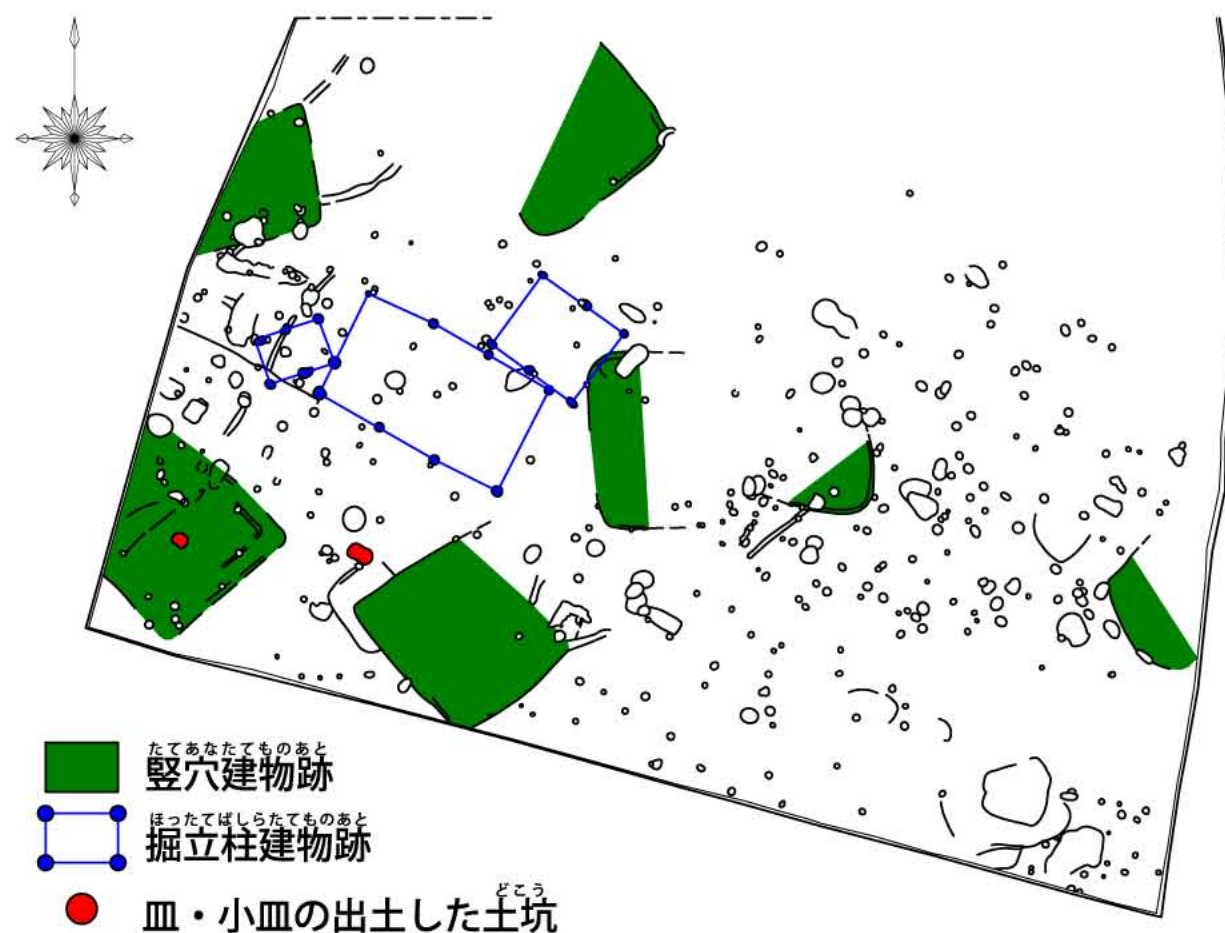
遺物も石の鏃や弥生土器、須恵器、陶器など各時代のものが出土しています。

これらのことから車塚遺跡では、古くは縄文時代にまで人の足跡をたどることができ、その後江戸時代までほとんど絶えることなく、それぞれの時代の人々がそれぞれの形で、この場所を利用していたことがわかります。



車塚遺跡周辺には車塚・岩津・天神山古墳群やハツ木古墳・年重古墳などたくさんの古墳のほか、縄文時代から中世までの石器・土器・陶器などが出土した於御所遺跡、縄文土器が出土した於御所南遺跡、弥生土器が出土した東郷遺跡、戦国時代の岩津城・岩津大膳城跡などがあり、さらに今も信仰を集める岩津天神も鎮座していることから、人々が狩をしたり、住みついたり、神や亡くなった人々を祀ったりという長い歴史が積み重ねられてきた地域だということがわかります。

車塚遺跡 遺構平面図



- たてあなたてものあと
堅穴建物跡
- ほったてばしらたてものあと
掘立柱建物跡
- 皿・小皿の出土した土坑

2. 調査の成果

今回の調査では上の図で示したように弥生時代終わりから古墳時代初め頃の堅穴建物跡7棟、室町時代の皿や小皿が出土した土坑2つ、時代不明ながら掘立柱建物跡3棟が見つかりました。

本遺跡は台地の上にあることから、長い時間の間に少しずつ土砂が流れ出たり、人間の利用によって地面が掘り返されたりして、住居として使われていたと考えられる堅穴建物跡のように古い時代のものはかなり削られて残りがよくありませんが、それでもせまい範囲にたくさんの建物跡があるのを見ると、集落が営まれていた当時(約1750~1800年前)の賑やかなようすをしのぶことができます。

3棟の掘立柱建物跡は、それぞれ重なり合ったり、向きが違ったりしているのので、建っていた時代が違うのかもしれませんが。

室町時代の2つの土坑(約450年前)は、中から皿や小皿のほか小さな石なども出土していることから、今のところお墓の可能性があると考えています。



堅穴建物跡(住居跡)

小皿と小石が出土した土坑

掘立柱建物跡